

2012 年度 12 月度  
世界遺産検定 マイスター試験  
講評 および 学習方法

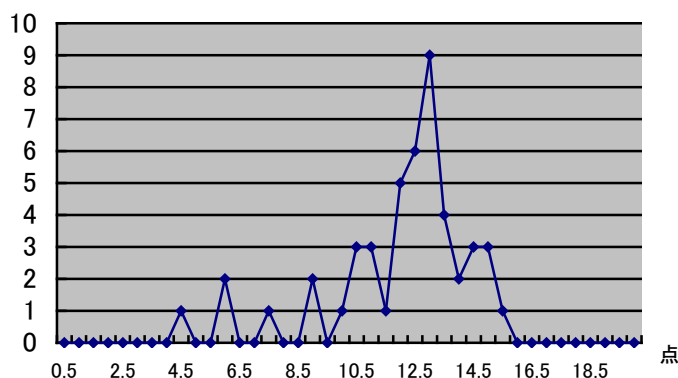
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

### 1. 実施概要

検 定 日：2012 年 12 月 9 日（日）  
検 定 会 場：東京・大阪  
検 定 時 間：12:45-14:45（解答時間 120 分）  
解 答 形 式：論述形式（記述）  
申 込 人 数：48 名  
受 検 人 数：47 名  
認 定 者 数：29 名（認定率 61.7%）

### 2. 認定点と分布

認 定 点：12 点（20 点満点）  
最 高 点：15.5 点  
最 低 点：0 点  
分 布：



### 3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 完全性
  2. 世界遺産条約履行のための作業指針
  3. 顕著な普遍的価値
- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。  
ユネスコ          世界遺産リスト          世界遺産基金          協力体制
- 3 2012 年 11 月の世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合（京都会合）において出された「京都ビジョン」を受け、世界遺産条約履行における地域社会や産業界、住民（先住民）などのコミュニティの役割について、「リヴァプール海商都市」の事例を用いて他の遺産と比較しつつ 1,200 字内で論じなさい。

### 4. 総 評

今回は、直接の世界遺産の知識だけでなく、周辺的な知識を持っていると感じられる解答もあり、全体的なレベルが高かったように感じた。しかしその反面で、飛びぬけて優れた解答というのは少なかった。それは 3 で出題された「京都ビジョン」が、一般的にあまり認知されておらず、その扱いに苦慮したためではないかと考えられる。また『リヴァプール海商都市』の事例においても、今年の世界遺産委員会での結果を考慮に入れていない解答も少なからずあり、最新情報を最後まで収集していたかどうか合否を分けたといえる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。その語句の最重要ポイントがどこにあるか見極める必要があり、「世界遺産条約履行のための作業指針」のような、様々な角度から説明可能なものは特に、適切な情報の取捨選択が必要であった。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語（完全性であれば「普遍的価値を構成する要素が全て含まれる」や「適切な大きさの確保」など）をはずさないようにしなければならない。学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむのが重要**である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。世界遺産条約には、世界遺産委員会の設立や世界遺産基金の設立、遺産保護のための国内機関の設置など様々な内容が含まれており、書き方次第で内容に差が出ていた。世界遺産委員会の委員国数や任期など、世界遺産条約の説明としては関係のない（あまり重要ではない）ことを書いている人もおり、何が世界遺産条約の説明として重要であるのか、書く前に考える必要があると感じた。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようになるのが重要である。  
文字数指定のある場合は、最低でもその 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：論理的に世界遺産に関する自分の考えを論述する問題。ウィーン・メモランダムなどに触れながら独自の視点で都市景観について論じるものもあったが、「京都ビジョン」の扱いにおいて及第点を与えられるものは少なかった。また、リヴァプールが危機遺産になったことを知らないのではないかと疑うような解答も少なからずあった。例年よりも難しい問題であったのかもしれない。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。  
このような論述問題の場合、「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。

**3**では「**世界遺産の理念**」と関係する問題が出題される。準備をする際には、世界遺産の理念を常に意識しつつ、世界遺産の各事例を考察することが求められる。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。